

## シラバス参照

科目名	日本史概説Ⅱ
配当年次	3年次
開講期間	後期
単位数	2
担当教員	石井 龍太(イシイ リョウタ)
期間・曜日・時限・教室	後期 水曜日 1時限 17-202

※	
授業の目的・目標	<p>【授業の概要】: 日本列島を舞台として、数万年に及ぶ人間の歴史が営まれてきた。現代日本は歴史教育に比較的热心で、また多くの人が歴史に興味を持っている。しかし小・中・高校時代に学ばれる歴史、商業目的のメディアが取り上げる歴史は、偏った一面的な内容であることも否めない。この講義では、日本列島を舞台に展開した特色ある人類史を様々なテーマから考えていく。特に日本列島の南北地域である北海道と琉球諸島を取り上げ、いわゆる中央とは異なる日本史を紹介する。</p> <p>【授業の目的】: 世界の中の日本を歴史的に理解できるようになることを目的とする。</p> <p>【習得できる力】:</p> <p>① 知識 ⑤ 論理的思考力 ⑪ 生涯学習力</p> <p>【授業の到達目標】: 講義を通じ、一步踏み込んだ日本史の知識と歴史観を獲得し、幅広い教養と地域社会や国際社会で活躍するための基礎的能力を習得することを全体の到達目標とする。</p> <p>【実務経験と授業内容との関連】: 博物館勤務経験を活かし、美術館展示を通じたアクティブラーニングを展開する。</p>
準備学習等の指示	<p>この授業は1回の授業につき3時間の準備学習が必要です。</p> <p>課題の提出は、Teams, WebClass等のLMSを用います。</p>
講義スケジュール	<p>■1回目 【テーマ】 もう二つの日本文化 【到達目標】 テーマとなる琉球諸島、北海道の歴史について触れ、中央史観で捉えきれない日本史の多様性を深く理解することを目標とする。また水田美術館にて開催中の『首里城の屋根展』をアクティブラーニングの実習先として指定する。 【準備学習】 前期の講義内容を復習し、また提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■2回目 【テーマ】 北海道史のはじまり 【到達目標】 北海道の人類史の始まりについて、日本史全体の開始と同運動するのを含めて深く理解することを目標とする。 【準備学習】 提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■3回目 【テーマ】 北海道の縄文文化、擦文文化、オホーツク文化 【到達目標】 弥生文化が到来しなかったとされる北海道の独自の歴史の歩みについて深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回までの講義内容について復習し、また提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■4回目 【テーマ】 蝦夷と和人 【到達目標】 古代、東北から北海道に広がっていたという蝦夷の実像と大和政権による侵略の歴史について深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回までの講義内容について復習し、また提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■5回目 【テーマ】 アイヌ文化 【到達目標】 北海道以北に広がるアイヌ文化の概要と、大陸、日本列島とのかわりについて深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回までの講義内容について復習し、また提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■6回目 【テーマ】 アイヌ「蜂起」 【到達目標】 和人に対するアイヌの武力抵抗の歴史について、特に江戸時代の例を取り上げつつ、そこから見える当時の社会情勢について深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回までの講義内容について復習し、また提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■7回目 【テーマ】 北海道近現代史 【到達目標】 近代に入り日本の北の境界域と位置付けられた北海道と周辺地域がどのような歴史的展開を経て今日に至るかについて深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回までの講義内容について復習し、また提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■8回目 【テーマ】 琉球史のはじまり 【到達目標】 琉球諸島の地理的特徴を踏まえた上で、初期人類の活動内容について深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回の講義内容を復習し、また提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■9回目 【テーマ】 琉球諸島の「縄文時代」「貝塚時代」 【到達目標】 琉球諸島で展開した独自色の強い縄文文化の内容について深く理解することを目標とする。</p>

	<p>【準備学習】 前回までの講義内容、特に琉球諸島の地理情報について復習し、また提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■10回目 【テーマ】 琉球諸島の「有土器時代」「無土器時代」 【到達目標】 琉球諸島南部で展開した、縄文文化、弥生文化との交渉が見られない独自の時代について深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回までの講義内容、特に琉球諸島の地理情報について復習し、また提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■11回目 【テーマ】 琉球諸島の「グスク時代」 【到達目標】 首里城をはじめとする「グスク」と、グスクが築かれた戦国時代「グスク時代」について深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回までの講義内容、特に琉球諸島の地理情報について復習し、また提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■12回目 【テーマ】 近世琉球1 琉球王国の登場 【到達目標】 統一政権が樹立され中国の後ろ盾を得て大きく躍進する琉球王国初期の展開について深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回までの講義内容、特に琉球諸島の地理情報について復習し、また提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■13回目 【テーマ】 近世琉球2 大交易時代から地産地消時代へ 【到達目標】 アジア交易の中で徐々にその地位を喪失し、対外的にも追い込まれていく16、17世紀の琉球王国の展開について深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回までの講義内容、特に琉球諸島の地理情報について復習し、また提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■14回目 【テーマ】 近世琉球3 日中両属時代の王国 【到達目標】 中国の動乱を契機に外交権を徐々に回復し、国内秩序を安定させていく17～19世紀の琉球王国について深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回までの講義内容、特に琉球諸島の地理情報について復習し、また提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■15回目 【テーマ】 近現代琉球 【到達目標】 明治政府による琉球処分により日本最初の植民地となった琉球が、同化政策、太平洋戦争、アメリカ占領時代と激動の時代を経つつ今日に至る過程について深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回までの講義内容、特に琉球諸島の地理情報について復習し、また提示された参考文献に目を通しておくこと。</p>
教科書	特に指定しませんが、講義中に紹介する参考文献を積極的に参照して下さい。
参考文献	安里進・土肥直美 2011年『沖縄人はどこから来たか(改訂版)』ポーター新書 榎森進 2003年『アイヌの歴史と文化 I』創童舎 榎森進 2004年『アイヌの歴史と文化 II』創童舎 石井龍太 2020年「首里城正殿の屋根変遷」『城西大学経営紀要』(16), 157-181
授業の方法	<p>授業方法として下記のアクティブラーニングの手法を実践します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反転授業</li> <li>・実習、フィールドワーク</li> </ul> <p>なお、本授業では授業の双方向性と皆さんの学びを可視化するために、Teams等でのチャット機能やFormsを活用した授業を実施します。</p>
成績評価方法	<p>【評価方法】平常点(授業への参画、受講態度)と試験・レポートで評価します。</p> <p>【割合】平常点50%、試験・レポート50%</p> <p>【基準】授業内容に関する深い理解を獲得することが出来たか。</p> <p>【フィードバック方法】なお、課題等については、 ・実技・実習後、全体に向けてコメントします。</p>
オフィスアワー	開講日の昼休み
居室	17-512
ホームページ	<a href="#">城西大学経営学部 石井龍太研究室</a>
その他特記事項	【ナンバリング : HIS201J】
添付ファイル	